

平成17年度 高冷地水稻生育速報(第9報)

中山間農業技術研究所

1. 生育概況(8月2日)

品種名	年度	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色		葉齡
				葉色板	SPAD値	
ひとめぼれ	本年	76.5 (81%)	448 (89%)	2.8 (-1.3)	27.3 (-8.1)	12.5 (+0.9)
	前年	94.8	504	4.1	35.4	11.6
コシヒカリ	本年	86.7 (93%)	440 (82%)	3.4 (-1.6)	31.5 (-4.4)	12.3 (+0.1)
	前年	93.6	535	5.0	35.9	12.2
たかやまもち	本年	81.5	384	4.3	35.0	12.5
ひだほまれ	本年	91.6	344	3.5	33.8	13.1

栽培条件: 移植5月17日 栽植密度22.2株/m² 1株4本稚苗移植 基肥N=0.5kg/a
 平年値: 過去5年間の平均値
 ()内の数値は対前年値

2. 出穂期の状況(8月2日)

品種名	本年	前年	平年	
ひとめぼれ	(8月3日)	8月3日	8月5日	平年より2日早い(予想)。
コシヒカリ	-	8月5日	8月7日	
たかやまもち	7月27日	7月29日	7月29日	平年より2日早い。
ひだほまれ	8月2日	8月1日	8月2日	平年並み。

栽培条件: 移植5月17日 栽植密度22.2株/m² 1株4本稚苗移植 基肥N=0.5kg/a
 平年: 過去7年間から最大値の年と最小値の年を除いた5年の平均値
 ()内の日付は予想出穂期

3. 生育状況と当面の管理

1) 生育状況

高めで推移していた気温は、ほぼ平年並みとなった。降水量は平年よりやや少ないが、日照時間は短めとなっている。

「たかやまもち」と「ひだほまれ」が出穂期をむかえ、「ひとめぼれ」もほぼ出穂期となっている。「たかやまもち」と「ひとめぼれ」(予想)では平年より2日早く、「ひだほまれ」では平年並みとなった。

全体に葉色が薄いままで葉色板、SPAD値ともに値が低い値が続いている。

2) 病害虫等の発生状況

セジロウカ(夏ウンカ)が増殖しており、斑点米カメムシも増加が心配されたため、所内ほ場では一部を除きスタークル剤(粒剤、顆粒水溶剤)による防除を実施した。また、コブノメイガによる食害痕が散見される。

葉いもちは、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」等で病斑が上位葉まで進展している。モンガレ病についても病斑が目立つようになった。

3)今後の管理

出穂の前後は、田面が乾くことのないよう湛水状態で管理する。穂肥を施用しても葉色が薄いまま十分に濃くならないこともあるが、必要以上の穂肥は施さない。

多くの品種で出穂期が早まっている。また、高温で推移すれば刈り取り適期(成熟期)はさらに早まるので、気温の変化に注意して適期の収穫を計画する。

斑点米カメムシの発生が多いので、「たかやまもち」等の早生品種では防除を徹底する。「コシヒカリ」「ひとめぼれ」などイモチ病に弱い品種や常発田では、穂いもちの発生に注意する。

<参考> 前回調査時(7月26日)の生育概況

品種名	年度	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色		葉齢
				葉色板	SPAD値	
ひとめぼれ	本年	70.7 (91%)	460 (90%)	3.2 (-1.3)	29.5 (-5.6)	11.9 (+0.5)
	前年	84.1	504	4.6	36.6	11.8
	平年	77.6	509	4.5	35.1	11.4
コシヒカリ	本年	81.6 (98%)	451 (88%)	3.3 (-0.9)	30.9 (-3.3)	11.7 (-0.1)
	前年	86.9	535	4.5	37.9	12.1
	平年	82.9	510	4.2	34.2	11.8
たかやまもち	本年	72.5 (89%)	391 (84%)	4.3 (-0.9)	36.0 (-2.4)	12.4 (+0.5)
	前年	88.4	415	5.2	40.6	11.8
	平年	81.5	468	5.2	38.4	11.9
ひだほまれ	本年	84.4 (101%)	371 (105%)	3.9 (-0.9)	34.4 (-2.2)	13.1 (+1.1)
	前年	86.3	350	4.1	34.4	12.5
	平年	83.9	352	4.8	36.6	12.0

中山間農業技術研究所
TEL 0577-73-2029
FAX 0577-73-2751